

2021年10月29日

小田急電鉄株式会社

I R室

2022年3月期 第2四半期決算に関するFAQ

※ ここでは、当決算について想定される質問と回答を参考として掲載しています。ご不明点等ございましたら、I R室（03-3349-2526）までお問い合わせください。

**Q1. 主な事業の足元の状況はどうか。**

当社鉄道業	改札通過人員【10月1日～17日】 緊急事態宣言解除後から回復基調 2019年度の75%程度で推移 ※ 2019年度の台風による運休の影響を除く
小田急百貨店	売上高【10月1日～18日】 2019年度同日の90%程度で推移 ※ 2019年度の台風による臨時休業の影響を除く
ハイアット リージェンシー 東京	稼働率【10月1日～14日】 17.9% 需要戻らず、前年同様引き続き低調に推移 11月も同水準で推移するものと想定
箱根エリア	箱根湯本駅乗降人員【10月10日～16日】 平日 △49% 土休日 △64% ※ 2018年度同週と比較
	箱根リゾートホテルの稼働率【10月1日～13日】 40%程度で推移 ※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、箱根ハイランドホテル、ホテルはつはな

**Q2. 運賃値上げについて、検討しているのか。**

- ・ 新型コロナウイルスの影響で収入についても引き続き厳しいものになると見込んでいるが、まずは経営合理化や設備投資計画の見直し等自助努力による支出抑制に取り組んでいく。想定以上に収入が減少した場合は運賃改定検討の可能性もあると考えている。
- ・ また、国土交通省が鉄道駅のバリアフリー化促進のための新たな料金制度を検討していることは把握している。しかし、具体的な制度内容については公表されていないため状況を注視していく。

**Q3. 時間帯別運賃やポイント付与の導入について、検討しているのか。**

- ・ 当社では 2018 年 3 月の複々線完成によって混雑率の大幅な低下を実現したことに加えて、新型コロナウイルスの影響によりお客さまの分散化が進んでいるため、現時点では検討していない。今後、輸送動向等も含めて環境変化を注視しながら、必要に応じて検討していく。

**Q4. 2021 年 7 月に発出された緊急事態宣言下で、百貨店の入場制限は実施したのか。**

**またその影響は。**

- ・ 8 月 12 日に政府の新型コロナ分科会より「東京の人流 5 割削減」が提言され、対策の一つとして百貨店食品売り場の人出の抑制が求められた。これを受け、小田急百貨店では 8 月 15 日から、新宿店・町田店の食品売場出入口を一部閉鎖し、入場者数が繁忙期の 5 割に達した場合は入場制限を行うこととした。
- ・ しかし、感染者の急増等の影響で来店客数が減少し、入場者数が繁忙期の 5 割に達することが無かったため、制限を実施することは無かった。

**Q5. 不動産分譲業において、今年度の販売が好調であるため来年度分を前倒しして販売しているようだが、来期以降の仕入れの状況は。**

- ・ 市場の過熱感はあるものの、事業性を確保できる見込みがある用地仕入れを徹底している。足元の仕入れは計画通り進捗しており、2023 年度供給予定分までは 7 割以上完了している。
- ・ 2023 年度までの供給予定物件の計画変更（前倒し）も含め、市況変動に合わせて分譲・賃貸活用といった事業内容を柔軟に選択し、商品化を進めていく。

**Q6. 2021 年 7 月に発出された緊急事態宣言下で、賃料減免は行ったのか。**

- ・ 各物件において臨時休業をしていないため、一律の賃料減免は実施していない。
- ・ なお、4・5 月の緊急事態宣言期間を中心とした臨時休業等に伴う賃料減免の影響額は、約 2 億円であった。

**Q7. 各ホテルの11月以降の予約状況を教えてください。**

<シティホテル>

- ・ 緊急事態宣言は解除されたものの需要の大きな変動はなく、予約状況は引き続き低調に推移している。
- ・ 11月以降の稼働率は9月実績と同程度（20%程度）と想定している。

<箱根リゾートホテル※>

- ・ 11月の稼働率は9月実績と同程度（40%程度）と想定している。

※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、箱根ハイランドホテル、ホテルはつはな

**Q8. 緊急事態宣言が解除されたが、箱根エリアにおいて、国内需要を取り込む具体的施策は。**

- ・ 2021年10月1日に、足元の需要動向等を踏まえて、自動車来訪者をメインターゲットに据えた「箱根のりものパス Lite」等、新たな企画券をデジタルチケットとして発売した。
- ・ これに合わせて、観光情報サイト「箱根ナビ」をリニューアルし、サイト上でデジタルチケットの購入を可能とするなど、観光プラットフォームとして、機能拡充を図った。
- ・ 今後も、国内需要の獲得に向けたさらなる施策を進めていく方針である。

11月：箱根湯本駅から芦ノ湖を結ぶ直行バス「芦ノ湖ライナー」運行開始予定

12月：箱根エリアの全22施設が利用できるサブスクリプションサービス「箱根遊び放題チケット」発売予定

**Q9. 2021年度の費用削減の進捗は。**

- ・ 当初、年間見通しには約 400 億円の削減を織り込んでいたが、継続的に見直しを行った結果、今回公表した年間見通しでは約 520 億円の削減を見込んでいる。また、第 2 四半期までの実績は、人件費や広告宣伝費等の削減により 276 億円となった。

(参考)

	費用削減額※	当社費用のうち
		固定費削減額
年間見通し (4月時点)	約 400 億円	約 86 億円
年間見通し (今回)	約 520 億円	約 100 億円
(第 2 四半期実績)	276 億円	61 億円

※ 流通業・不動産分譲業の売上原価等は控除

**Q10. 2021年度より「収益認識に関する会計基準」等が適用されたが、適用の影響を控除した場合の対前年増減は。**

(第 2 四半期実績)

単位：百万円	2020年度 上期	2021年度 上期 (会計方針変更前)	増減
営業収益	167,645	205,303	+37,658 (+22.5%)
運輸業	53,490	63,051	+9,561
流通業	70,705	81,828	+11,122
不動産業	27,352	42,346	+14,994
その他の事業	29,676	31,538	+1,862
調整額	△13,578	△13,461	+116

(通期予想)

単位：百万円	2020年度	2021年度 (会計方針変更前)	増減
営業収益	385,978	429,400	+43,421 (+11.2%)
運輸業	116,230	135,800	+19,569
流通業	157,685	169,600	+11,914
不動産業	72,872	80,900	+8,027
その他の事業	68,131	70,300	+2,168
調整額	△28,941	△27,200	+1,741

※ 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益への影響は軽微である。

**注意事項**

本資料に記載されている、計画、見通し、戦略のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しであり、これらは開示時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。

したがって、実際の業績は経済情勢等の変化によって業績見通しとは異なる可能性があります。

以 上